

令和元年度 第1回 三種町総合教育会議議事録

- 1 開催日時 令和元年9月18日(水)午後3時00分
- 2 開催場所 琴丘地域拠点センター 研修室
- 3 出席者 三種町長 田川 政幸
三種町副町長 檜森 定勝
三種町教育委員会 教育長 鎌田 義人
委員 水野 京子
委員 佐々木 孝一
委員 嶋田 博光
委員 工藤 智穂子
- 4 欠席者 なし
- 5 事務局 教育次長 畠山 広栄 次長補佐 鎌田 誠
次長補佐 大高 博充 次長補佐 木村 将来
- 6 傍聴者 2名
- 7 協議案件 (1) 学校の在り方に関するアンケート調査について
(学校の在り方に関する検討)

午後 3 時 0 0 分 開会

木村補佐 それでは定刻となりましたので、令和元年度、第 1 回三種町総合教育会議を開催いたします。はじめに町長より、ご挨拶をお願いいたします。

田川町長 本日は、令和元年度の 1 回目の総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。また教育委員の皆様におかれましては、日頃より小中学校の教育行政について貴重なご意見ご協力をいただき誠にありがとうございます。この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、本日の会議の議題は、今後の小中学校の在り方について先般、保護者の方を対象にアンケートを行いました。その結果を踏まえて委員の皆様から忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

先日行われました 9 月議会では、議員の皆様も少子化について大変注目しており、学校の在り方についても厳しいご質問をいただいております。それにしっかり答えていくためにも本日の会議は非常に重要であると考えております。また、学校の在り方については私も 3 年前に検討委員として参加した経緯がございます。その時ものろいろなご意見がありました。そういった経験も踏まえ、また地域の方々の意見も取り入れながら、この問題について考えていきたいと思っております。どうぞよろしくをお願いいたします。

木村補佐 ありがとうございます。続きまして教育長よりご挨拶をお願いします。

鎌田教育長 令和元年度第 1 回目の総合教育会議の開催、誠にありがとうございます。本日は、副町長もご多忙の中ご出席いただきありがとうございます。

教育委員会では今年度、学校の在り方に関するアンケートとして町の小・中学校と幼・保育園の保護者の皆様に調査をお願いしています。

学校を取り巻く環境は、子供の数、校舎の問題、町の財政事情もあります。さらには教育改革や働き方改革が国で進められています。また、本町には複式学級が1校存在しております。さらには学校の適正規模、適正配置が60年ぶりに手引きが改定されております。

これらのことをしっかり踏まえて、今後の町の教育環境をどのよに再編、整備していけばいいのか、教育委員、町長、副町長、交えての会でありますので、この中でしっかり方向性を出していきたいと考えております。

町の教育をより良くしていくために皆様と協力しながら、子供達にとってより良い方向性が見いだせる会になるように、私たちも意見を出していきたいと思っております。本日はよろしくお願ひいたします。

木村補佐 ありがとうございます。それでは、ここからの議事進行については町長にお願いします。

田川町長 はい。それでは次第の4番に入ります。議事録署名委員の指名でございますが、当職から指名させていただいてよろしいでしょうか。

出席者 はい。

田川町長 それでは、佐々木委員にお願いします。

佐々木委員 はい。

田川町長 それでは協議事項に入ります。
(1) 学校の在り方に関するアンケート調査について、教育委員会事務局より資料に基づいて説明をお願いします。

木村補佐 教育委員会事務局 木村次長補佐より集計結果について報告。

○学校の在り方に関するアンケート調査の実施内容について

- 1 趣旨 少子化に伴う児童生徒数の減少や施設の老朽化などの課題に向き合い、将来にわたり持続可能な教育環境の整備について検討していくため、保護者の意見を把握する。
- 2 調査期間 令和元年5月20日～6月7日
- 3 調査対象 三種町内の幼・保育園、小学校、中学校に通う園児・児童・生徒の保護者
- 4 実施方法 幼・保育園、小・中学校 を通じて保護者に配布・回収
兄弟姉妹がいる場合は世帯でまとめて回答
- 5 これまでの流れ
4月19日（金） 第4回定例教育委員会 アンケート内容の決定
6月28日（金） 第6回定例教育委員会 アンケート集計結果について
7月26日（金） 第7回定例教育委員会 アンケート集計結果と意見集約
9月18日（水） 第8回定例教育委員会・第1回総合教育会議

○小学校の在り方に関するアンケート結果

- ①琴丘地域 現状維持55.9%。統合検討36%
- ②山本地区 統合検討52.2%。小学区で見ると、下岩川と金岡地区では現状維持を求める意見が多く、森岳地区では統合を検討する意見が多い。

下岩川地区 保育園の保護者は統合検討の意見が多い。(67%)
小学校の保護者は現状維持の意見が多い。(50%)
森岳地区 保育園(82.5%)、小学校(53.4%)の保護者ともに統合検討の意見が多い。
金岡地区 保育園(50%)、小学校(53.3%)の保護者ともに現状維持の意見が多い。
山本中学校 小学校について統合検討の意見が多い。(54.9%)
- ③八竜地域 現状維持52.3%。統合検討43.8%

○中学校の在り方に関するアンケート結果

3地域とも中学校の在り方については現状維持の声が多い。

琴丘地域 現状維持 48.4%、統合検討 41.9%

山本地域 現状維持 50.7%、統合検討 30.9%

八竜地域 現状維持 60.1%、統合検討 30.2%

○自由記述

「児童数の減少で運動会や学習発表会で子供の役割が増え、負担になっている。PTA活動でも親の負担が増えている」。「複式学級は子供に負担だ。早期に統合して平等な教育環境を提供してほしいと切に願う」。という意見や、スポ少活動での不安を訴える保護者からの意見もあった。現状維持の意見としては子供の通学の不安を訴える声が多かった。

田川町長 それでは、ただいまの説明を受けて、皆様よりご意見をいただきたいと思います。私から指名してよろしいでしょうか。

出席者 意義なしの声。

田川町長 教育委員の皆さんより順番にご意見を伺います。
はじめに、佐々木委員お願いします。

佐々木委員 今回のアンケート結果について、前回（平成28年度）に行ったアンケートの結果と大きな変化は見られないと感じています。前回は、引き続き検討するという意見でまとまりました。しかし今回は、方向性を出さなければならない時期になっていると思います。

下岩川小学校の複式学級の問題については、今後の学習のあり方も変化していく中で、保留していいのか。早急に判断が必要なのではないでしょうか。アンケートの中にも、「友人がいない。スポ少活動が難しい」などの意見も多くあります。これから子供達が大きくなっていく上で、「人間関係、人とのつながり」をいかに発展させていくかというのは重要だと思います。

他の地区においてもいずれは複式学級の問題は考なければならな

と思いますが、まずは、現在複式学級を抱える下岩川小学校の統合について早急に検討していかなければならないのではないかと考えます。

田川町長 嶋田委員お願いします

嶋田委員 統合の問題について、ふるさと教育の観点から、地域の文化や歴史を学び郷土を愛する心を育む教育は、子供達が地域に残る力ともなるものです。少子化の児童生徒の減少により学校は減っていくと思いますが、地域に1校は残した方がよいと思います。

田川町長 工藤委員お願いします。

工藤委員 アンケート結果を見ると、琴丘・八竜は現状維持の声が多い。しかし、山本地域は保育園の統合の話も出ていますので、小学校についても同じ環境で統合して行く方がよいのではないかと思います。

そして、教育環境という面而言えば、各地域に差があってはならない。町内どこでも平等でいてほしいと思います。そうすれば現在下岩川小学校において複式学級で問題が生じており教育環境が十分ではないとすれば、それは解消していかなければならないと思います。

また、中学校についてですが、現在は現状維持が多い声ですが、児童生徒の減少を考えると、統合を検討して行くのが望ましいのではないかと考えます。

田川町長 水野委員お願いします。

水野委員 複式学級を何度か見学させていただきましたが、現場の大変さがとても伝わってきました。先生はもちろん子供達も大変だと感じました。もちろん教育現場では子供達の教育に尽力し十分な環境を維持していただいているわけですが、その負担は相当のものです。一人ひとりにきめ細やかな対応のできるなど、複式学級のメリットがないとは言いませんが、それぞれの負担を考えるとこの状況は早急

に解消しなければと感じます。

アンケートは佐々木委員がおっしゃったように、やる度に意見が拮抗していて、保護者の皆さんの意見が割れているのも見て取れます。しかし、どこかで決断は必要ではないかと思います。子供達にとって大事なのは選択肢の幅だと思います。この多様化の時代に、どうやって自分の意見や立場を考えて行くかを学ぶのは非常に重要なことだと思ひ、そのような環境を作っていかなければならないと考えます。

田川町長 鎌田教育長お願いします。

鎌田教育長 現在下岩川小学校の複式学級について見ると、重要なのは子供達にとってその教育環境が適切なのかを考えなければならぬのではないのでしょうか。

それでは、なぜこれまで複式学級を解消してこなかったと言え、学校における地域での立場の大きさがありました。学校は地区の拠点であり、残したいという強い要望に統合を中々踏み切れない事情もありました。地区の情熱によって学校は建てられたものです。その地区の意見を無視することはできませんでした。

しかし、最近の教育改革等をみるに、子供にとっての教育を考えると複式学級の限界を感じました。先日の9月議会で答弁しましたが、複式解消に努めるべきではないかと考えます。

また、町全体でも学校のあり方について決断していかなければならぬ時期にきたと考えました。

昨年、三種町で出生した子供は40人です。この子供達が中学校に入学した時は1クラスの人数しかいないという現実があります。

それを踏まえて私の意見を申しますと、各地域に小中義務教育学校または併設校の形をとって小中学校と各地域に残すのがいいのではないと思ひます。

小中学校一本になれば1つの学校での教員の数が増えます。決定事項ではありませんが、今後の動向として学級担任制ではなく教科担任になる話もある。そうすると小・中で教師が連携すれば良い方向になるのではないか。そういう教育の進め方もできるので、子供

達にとってより良い環境になるのではないかと考えます。

町として考えれば、立てる場所や財政、建設時期など様々な課題はありますが、各地域に小中学校を先ほど言ったような形で残すというのが理想ではないかと考えます。

田川町長 檜森副町長お願いします。

檜森副町長 今まで各地区では現状維持の声が強かったのですが、学校がその地区にあった方がというのは、住民の皆さんとしては当然の考え方だと思います。しかし、昨今の急激な少子高齢化など時代の変化に伴い、ここ数年間でさえ事情は大きく変わってきました。

今後の学校のあり方は、誰のために考えるかということ、子供達の事を優先して考えるのが一番大事ではないかと考えます。教育環境も大きく変わっていくようで、これも合わせて考えていかなければならない。また、教育長がおっしゃるような小中一貫校として3地域に学校を残すという意見は、地域と学校の立場を考えても非常に大事だと思うので今後検討のテーブルに載せていくべきだと思います。

まずは、一番心配されるのが下岩川の複式学級の問題だと思います。子供の成長過程の中でどのような影響があるのか、子供達の交流など教育環境を考えると、森岳小との統合など早めの対応が必要ではないかと思えます。中学校についても皆さんおっしゃるとおり今後引き続きテーブルに乗せていただきたいと思います。財政面では合併特例債が大変有利なものでございます。有効に活用していただきたいと思います。

田川町長 私の考えを述べます。副町長の話にもありました合併特例債ですが、これを有効に使うためには、今年度中にある程度の方向性を出さなければならないと思います。そこから逆算して計画を立てるとしても、小中学校の適正な数、財産としての学校をどう地区に残すのかなど、解決すべき課題は多く非常に難しい問題であると思えます。しかし子供達の減少や昨年度の出生数を見て、どういう形がいちばん子供達にとって大事なのかを一番に考えなければならないと

強く感じました。

鎌田教育長のお話にあった小中一貫校については、一つの選択肢ではあると思いますが、昨年町内で生まれた子供達が40人ということを見ると今後の学校規模はかなり小さくなることが予想されます。小学校については、特に低学年の子供達には通学の問題が大きく、各地域に一つは必要だと考えます。中学校については先ほどの出生数を見ても昨年生まれた子供が中学校に上がる令和12年頃までには、町内1校にするのが理想なのではないかと考えます。

あくまで個人的な意見でありますので、これからいろんな人のご意見を聞き、皆さんと協議しながらしっかりした意見にまとめていきたいと考えますのでご協力をお願いいたします。

田川町長 皆さんよりご意見を伺いましたが、質問や補足などありませんか。

嶋田委員 1学級の人数はどのようになっていますか。

鎌田教育長 40人までは1クラスです。クラスによって教師が配置されます。県の定数によります。複式学級については、1年生は隣の学年である2年生と合わせて8人以上いなければ複式学級になります。2年生から6年生は隣の学年と合わせて16人以上いなければ複式学級です。

下岩川小学校は全学年が複式になりますが、秋田県では3複式の解消を行なっていますので2複式となっています。しかし、今後の英語教科化や5・6年が教科担任制になれば、現在の複式学級では教師も児童も、さらに負担が大きくなってしまおうと考えています。

田川町長 併設校になった場合、先生の交流はできるのでしょうか。

鎌田教育長 はい。中学校の先生が、小学校に行って授業を教える等、交流ができます。お互いに行き来しあうことによって授業の負担をカバーできるというメリットがあります。

田川町長 仮に各地域に3校の併設校を設置し、先ほどから話題に上っている、平成30年生まれの子が（町内40人の出生数）、中学校に上がる頃に中学校を1校にする。それまでは併設校として運営し、途中で中学校を統合するという方法はできますか。

鎌田教育長 できます。能代市の鶴形小中学校の例があります。小中学校が1校舎になっていたのですが、中学校だけ東中学校に統合になりました。

田川町長 小学校も児童数の減少は問題なわけではありますが、私は、9月議会でも答弁したのですが、町内で1校になることによる低学年の子供達の通学の負担は非常に大きく、好ましい状態ではないと思います。

中学校も、可能な限りは各地域に1校あった方がいいと思います。しかし、現状として校舎の老朽化もあり、いずれは校舎を建てるなどの対策を行わなければならないと思います。そのタイミングで生徒数を考えると統合という選択肢が必要なのかと思います。

鎌田教育長 中学生は体力もありますし通学バス等で通学手段を確保すれば対応できると思います。ただし他町の例をみてもバスの台数の確保が数十台にもなり財政的な問題もあります。

工藤委員 昨年度の出生数が40人ということですが、他の小学校でも複式の可能性は出てくるのですか。

畠山次長 はい、資料の児童生徒数の推移をご覧ください。出生数から入学児童を推計しています。その中で、浜口小学校は令和6年度に11名いるのですが、令和7年度には2名と大幅に減少します（平成30年度出生数）。本年度の出生数によっては令和8年頃には複式学級になる懸念があります。

檜森副町長 建築費の問題もありますが建設の計画についても時間がかかります。単年度で一挙にできる規模ではないので、今のうちから計画を持って段階的に進めていく必要があります。

佐々木委員 段階的な計画で優先順位を考えた場合、山本地域のことに戻りますが、保育園が先行して統合が進んでいます。今後は3地区で1つの保育園になると思います。そうなった場合、保護者の立場で教育環境を考えると、小学校も保育園も環境は一体のものだと思います。保育園の統合時期にあわせて山本地域の小学校1校化も考えていかなければならないのではないかと思います。中学校も、これだけ急激に子供の数が減るとすれば1校化も考えていかなければならないと思います。

檜森副町長 県教委の対応も必要になるのではないですか。

畠山次長 準備期間について2年は必要だと思います。学校の準備については対等統合か合併統合かで大きく違います。合併統合であれば比較的早くできますが、対等統合では、校名、校歌、通学手段など、新しく作る事が非常に多く準備に時間がかかります。

鎌田教育長 琴丘地域が鹿渡、鯉川、上岩川小学校が琴丘小学校として合併した時も、校歌、校名など作りまし、スクールバスも新たに配置になりましたので準備に時間がかかりました。

水野委員 今まで話し合った内容で見えてきたというか、私が思った事ですが、これまでのアンケート結果を見れば意見の拮抗で判断が難しい部分があるのですが、あわせて、児童生徒数や財政的な問題も考えれば、ここで決断すべきではないか。令和7年度の話を考えれば下岩川もそうですが、八竜地域の合併も考えるべきではないかと思っています。

田川町長 統合はいつまでに決めるかなど時期的な問題がありますか。

鎌田教育長 学校統合の2年前には県にも示さなければならぬとなれば、令和4、5年あたりまでには決める必要があると思います。

佐々木委員 八竜地域については、積極的な反対意見はないようですが、児童数の激減を考えれば検討していかなければならないのではないのでしょうか。また、統合の準備として生徒達の環境の下準備も必要ではないかと思います。学校間での行事での交流などです。

工藤委員 私も同意見です。現在小学校ではスポ少活動などで他校との交流が行われていますので、それを更に広めていくと良いのではないかと思います。

鎌田教育長 お二人の意見にありました児童の交流が、財政的、事務的な話しと同じくらい統合の準備では重要になります。この部分で既にスポ少交流もそうですが、学習発表会や修学旅行などを合同に行っており、はじめの準備はできました。さらに子供達の交流の場を作っていける環境にあると思います。

檜森副町長 教育関係の国庫補助などは何かありますか。

畠山次長 学校施設関係では校舎の長寿命化の事業などがあります。3分の1の支出で行える事業であります。

鎌田教育長 山本地域での保育園について、下岩川と森岳保育園が先行しますが、金岡の統合も計画に入っているのでしょうか。

田川町長 山本地域の保育園の一本化は既に計画しています。現段階では金岡保育園の園児数が多く、統合した場合、施設の対応ができないので施設の建設等を含め検討しています。

鎌田教育長 小学校の場合も金岡小については児童の減少は少なく、保護者の意見も現状維持の声が多いです。

田川町長 小学校についても、複式学級の解消を急務と考えれば、保育園同様に下岩川の統合を優先し、段階的な統合も考えて良いと思います。

鎌田教育長 小学校については、施設の規模では現在の3校が一緒になっても各学年1クラスで現状と変わりありません。統合を段階的に行ったとしても対応の負担は少ないと思います。

田川町長 児童生徒数の減少等、時間的な問題もあり各地域同時に統合は考えていかなければならないのですが、先に下岩川の統合を優先して3校統合の下準備をしていけば良いのかと思います。

他の地域、八竜についてもその例がモデルになり統合の負担は少なくできるのではないかと思います。

田川町長 皆様のご意見はいかがですか。

鎌田教育長 地域の意見を重視するのはもちろんですが、先ほどから皆さんより出ている意見、子供達にとって良い環境を優先して考えるのがよいと思います。

畠山次長 今後の方向性として、下岩川の複式解消を優先して今後の計画を進めていくとすれば、今年度中に協議会を設けるのかなどの検討も必要です。

田川町長 協議会の組織についていかがですか。

佐々木委員 協議会という方向性を決め、住民説明をしていくのがいいと思います。

鎌田教育長 県との調整のタイムスケジュールなどは、教育委員会事務局で県と相談してみます。

田川町長 県との打合せの結果を持って、次回の総合教育会議で協議会の組織による本年度の方向を決める。具体的な所では下岩川小学校の統合を優先して決める。議会は町の全体的な方向性についての意見を求めていますので、全体的な方向性についても本年度で方向性をだせるようにするという事によろしいでしょうか。

出席者 異議なしの声

田川町長 大変貴重なご意見をいただきありがとうございました。それでは学校の在り方について今後も議論を進め、今年度中に方向性を決めて町民の皆さんにお知らせしたいと思います。

委員の皆さんについては今後ご指導をお願いいたします。以上で令和元年度第1回総合教育会議を閉会いたします。

(午後4時00分閉会)

会議のてん末・概要に相違ない事を証明するためにここに署名する。

三種町長

署名委員